

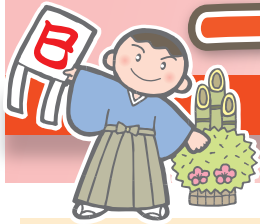
1
2025

三重病院

ニュースレター

news letter vol.300

- 01 年頭のご挨拶:2025
- 02 新年のごあいさつ
- 03 新年のごあいさつ
世界糖尿病デー
- 04 糖尿病ワンポイントアドバイスNo.6
やまばとギャラリー
- 05 通所支援事業のひとつ
今月のみえツウちゃん
- 06 病院からのご挨拶/外来診察のご案内



年頭のご挨拶

国立病院機構三重病院 病院長 谷口 清州

2025(令和7)年、新しい年の始まりに際しましてご挨拶を申し上げます。今年の干支はヘビですね。動物としては苦手な方も多いと思いますが、古代より神様の使いとされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから旧態を脱して新たな段階へと変容していくシンボルともされております。哲学者のニーチェ(Friedrich Wilhelm Nietzsche)は、「脱皮できない蛇は、死ぬしかない。同様に、考えを変えられない精神もまた失われるのである。」と言っていますが、まさに旧態に固執して新たな時代に適応していくことができなければ滅びていくしかないのだろうと思います。まさに現状の日本に当てはまるのではないのでしょうか。

COVID-19パンデミックによって、これまでに認識されつつも対応されてこなかった医療における多くの課題がみえてきました。医療機関はパンデミック時には莫大な数の患者に全力をあげて対応したにもかかわらず、その後は多くのところが経営困難に陥っています。もちろん、当院も例外ではありません。経営を考えれば、病床数、スタッフ数を削減すればよいのですが、そうなれば全体の医療サービスの量と質の低下につながってしまいますので、簡単にできることではありません。一方では高度な専門医療と十分なケアを提供するためには十分なスタッフと設備を備えておかねばなりません。現状で医療従事者は不足し、高度医療のための新たな機器を導入することができなくなりました。

現状の日本の医療体制は1960年代の高度成長期に設置されたもので、その頃はうまく回っていたの

だろうと思いますが、現在では人口構造はもとより医療内容も大きく変わっており、日本の医療体制もこれまでの旧態にこだわらず、脱皮して新たな時代に適応していく必要があると思っています。これは国家的な問題であり、一地方病院がどうこう言っても現状を変えることはできませんので、現場として、現場でできることを一つずつやっていくしかありませんし、地域に必要な医療を提供していくことにはこだわっていかねばならないと考えています。地域に必要な医療をきちんとやっていれば、まともに病院が成り立つような制度にしていきたいものです。

少子高齢化に伴い小児が減少し、小児医療は成り立たなくなると言われてきましたが、こういう時代にこそ、たとえ赤字になろうとも、それを社会で支えて、子どもたちを、小児は当然どんどん成長していきますので、乳児から思春期、そして成人になるまで、心身ともにトータルにケアができる体制が必要だと考えています。当院は以前より「小さな子どもから高齢者まで社会的弱者を支える総合成育医療機関」を目指してきましたが、今年から、更に強化して「小児から成人までのトータルケア」として、小児から成人への移行期の医療を推進していく予定です。

引き続きみなさま、そして社会のご理解とご協力をお願い申し上げます。2025年が、みなさまにとって、新たな一步を踏み出せる一年となることを祈念申し上げます。

Healthier and Happier New Year!

